

第13回 ちゅうでん教育振興助成（平成25年度）

報告書資料 復興支援-28

学校名・団体名	南部町立南部中学校
HPアドレス	http://www.torikyo.ed.jp/nanbu-j
コース	学校支援
活動・研究の テーマ	南中ひまわりプロジェクト
〈活動・研究の意義目的〉 本校では、2012年4月より「福島ひまわり里親プロジェクト」に参加しております。この活動を生徒会活動の中心に位置付け、全校生徒が取り組み、そして町全体の取り組みへと発展させていくことで、保育園・小学校・中学校が連携を取りながら、子どもたちの自主性や積極性を育ませたいと考えました。また、実際に福島県への訪問を行い、現状を知り、その報告会を行うことで、自分たちが取り組んでいる活動の大切さを実感してほしいという願いがありました。	

(1) 時期・内容

- 5月8日 …委員会活動として「畑づくり・草取り」「プランターの準備」などを行う。
- 5月16日 …生徒会執行部が中心となり、昨年度に収穫されたひまわりの種まきを行う。
- 5月17日 …全校生徒による水遣りを開始。(毎日、各学年の日直が担当)
- 6月10日 …生徒会執行部が町内の保育園・小学校を訪問し、園児や児童たちと一緒に種まきを行う。
- 9月20日 …生徒会執行部が小学校を訪問し、児童と一緒にひまわりの種を収穫。
- 9月24日 …委員会活動として、中学校で育ったひまわりの種を収穫。
- 10月4日 …保育園の園児たちが、中学校へひまわりの種を届けに来た。
- 11月1日 …収穫した種を文化祭で配布するため、保護者の方と一緒に種の袋詰めを行った。
- 12月21日、22日 …元生徒会長の3年生と現生徒会長の2年生の2名が、福島県の被災地を訪問。(教員が引率)
- 1月7日 …3学期の始業式後、生徒2名による福島県訪問の報告会を実施。
- 1月8日 …全校生徒による福島県へのメッセージ書きを実施。
- 1月20日 …「福島ひまわり里親プロジェクト」を行っているNPO団体の方へ、メッセージを郵送。



委員会活動での畑づくり



各学年の日直の生徒たちによる毎日の水遣り



園児たちが中学校へ訪問



保護者の方と種の袋詰め



生徒による被災地訪問の報告



全校による福島へのメッセージ

(2) 成果・子どもたちへの効果

昨年度から南部中学校で取り組んでいる被災地への復興支援「南中ひまわりプロジェクト」が、実際に福島県でどのようにして生かされているのか、そして、被災地の現状がどのようになっているのかを詳しく知ることができた。

初日、NPO 団体「福島ひまわり里親プロジェクト」の代表である半田真仁さんの計らいで、障がい者の就労支援施設である「和」の方々と一緒に食事を取ることができた。「和」の方々は、全国から届けられたひまわりの種を袋詰めし、福島県内の各学校や観光施設へ届けている。その方々へ、今年の秋に南部町内の保育園や学校で収穫したひまわりの種を、生徒たちから直接手渡しをすることができた。また、二本松市にある仮設住宅や、福島市で行われていた汚染土壌の入れ替え作業、3年近く経った今もがれきの山や破壊された家屋が放置されている南相馬市・浪江町の様子を間近で見ることができた。案内して下さったタクシーの運転手の方も被災者の一人で、津波の押し寄せる様子や、当時の悲惨な状況を生徒たちに詳しく語っていただいた。

福島を訪問した生徒2名の感想には「本当に東日本大震災はあったのだと実感することができた」「津波による被害が予想以上で、言葉を失った」という言葉があった。東日本大震災は鳥取から遠く離れた東日本で起こった出来事であり、実感が湧かないのも事実である。だからこそ、その場へ実際に訪れてみて、自分たちの目で見るのが大切であると感じた。

また、3学期の始業式後に行われた福島県訪問の報告会では、生徒たちから生徒たちへの思いが語られ、全校生徒が真剣に聴いていた。その後に行った全校生徒による福島へのメッセージ書きでは、「僕たちが育てたひまわりの種は役に立っていますか」「最近、テレビでも『復興』という言葉が聞かなくなりましたが、現状はまだまだ。一緒に頑張りましょう」など、福島県への思いを馳せた言葉が多くあった。

東日本大震災の復興にはさらに長い年月が必要であるということ、そして、だからこそ私たちが「南中ひまわりプロジェクト」を継続していき、被災地の方々を勇気づけていかなければならないのだと、その意義の大きさを改めて実感することができたのではないかと思います。